



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 宝ホールディングス株式会社

コード番号 2531 URL <http://www.takara.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柿本 敏男

問合せ先責任者 (役職名) 財務・IR部長

(氏名) 掛見 卓也

TEL 075-241-5124

四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	101,130	3.7	3,275	36.8	3,429	33.7	1,828	△72.3
26年3月期第2四半期	97,561	1.9	2,395	△17.4	2,564	△10.8	6,609	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 1,196百万円 (△93.2%) 26年3月期第2四半期 17,559百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	9.09	—
26年3月期第2四半期	32.58	32.58

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	246,530	145,761	49.1
26年3月期	238,577	146,422	50.9

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 120,936百万円 26年3月期 121,431百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	11.00	11.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	9.00	9.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 9円00銭 特別配当 2円00銭

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	218,000	4.0	9,800	3.3	10,000	0.9	5,300	△48.4	26.34

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	217,699,743 株	26年3月期	217,699,743 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	16,473,370 株	26年3月期	16,466,424 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	201,228,886 株	26年3月期2Q	202,857,741 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は11月11日(火)に機関投資家・証券アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、説明会終了後遅滞なく当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

## ○ 第2四半期決算短信補足資料

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、夏場の天候不順の影響もあり、消費税増税後の落ち込みからの回復が遅れております。また、若干着落きを見せていた円安も、9月に入って急速に進展し、輸入原材料の価格上昇が見込まれます。消費税増税と合わせた消費者物価の上昇が、実質賃金の上昇を上回る状況のなか、消費者心理の落ち込みが懸念されます。一方海外では、米国の景気は堅調に推移しておりますが、ヨーロッパや新興国の経済成長には若干のかげりもみられ、いわゆる地政学リスクの影響も懸念されるなど、依然として不透明な状況が続いております。

このような環境のなか、当社グループでは、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現へ向け、「国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく」ことを基本方針とする3カ年の中期経営計画「TaKaRaグループ中期経営計画2016」のもと、更なるグループ企業価値の向上を目指しております。

国内酒類事業においては、多様化する消費者嗜好に対応したオリジナリティある新製品の開発やブランド育成に注力し、また調味料・酒精事業においても顧客企業に対し、差異化されたユーザーニーズに応える商品提案を行うことにより、売上高の拡大を図っております。

海外酒類事業、海外日本食材卸事業では、両事業を通じて日本食文化を世界に広げることによって事業成長を加速させることを目指しております。

バイオ事業では、長年培われたバイオテクノロジーを活用し、バイオ産業支援事業、遺伝子医療事業、医食品バイオ事業の3つの領域に経営資源を集中し、業績の向上に努めております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前連結会計年度に連結した子会社の売上が新たに加わったこと、円安による海外子会社の売上の増加などにより、前年同期比103.7%の101,130百万円と増収となりました。また、売上高の増加により、売上総利益も前年同期比104.5%の38,627百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、新規連結や円安による海外での人件費などの増加がありましたが、広告宣伝費や販売促進費の削減により、前年同期比102.3%の35,351百万円と売上総利益の伸びに比べ抑制することができました。この結果、営業利益は前年同期比136.8%の3,275百万円と増益となりました。営業外損益は、前年同期の為替差益が為替差損に転じたこと、株式交付費がなくなったことなどがありましたが、ほぼ前年同期並みとなり、経常利益も前年同期比133.7%の3,429百万円と同じく増益となりました。

特別損益では、前年にタカラバイオ株式会社株式の一部売却による関係会社株式売却益があったため、特別利益が前年同期に比べ大幅に減少いたしましたので、税金等調整前四半期純利益は前年同期比28.2%の3,343百万円となり、四半期純利益は同27.7%の1,828百万円と、ともに大幅な減益となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

## [宝酒造グループ]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、品種別には、酒類では主力の焼酎が、飲用甲類焼酎を中心に全般に低調で、焼酎全体では大幅な減収となりました。また「焼酎ハイボール」が引き続き好調なソフトアルコール飲料も、昨年の新製品の反動減もあり全体では減収となりました。一方、「松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒」が好調な清酒は、平成26年9月に新発売した「松竹梅「天」<糖質70%オフ>」の貢献もあり増収となりました。しかしながら焼酎の減少の影響が大きく、酒類全体では減収となりました。

一方、前連結会計年度に連結子会社としたTAZAKI FOODS LTD. (英国)、COMINPORT DISTRIBUCIÓN S.L. (スペイン)等の売上が加わったことにより海外日本食材卸の売上が大幅に増加したため、当セグメント全体では前年同期比103.3%の88,515百万円と増収となりました。

売上原価は、円安による原材料の価格上昇はあったものの、継続的なコストダウンへの取組と商品構成の変化による原価率の低下により、前年同期比102.9%の56,846百万円と売上高の増加に比べ増加率が少なかったため、売上総利益は前年同期比103.9%の31,668百万円となりました。販売費及び一般管理費も海外子会社の人件費等の増加はあったものの、宝酒造株式会社で広告宣伝費や販売促進費を削減したことにより、前年同期比101.6%の29,474百万円にとどまったため、セグメント営業利益は前年同期比149.9%の2,194百万円と増益となりました。

## [タカラバイオグループ]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、主力の研究用試薬が円安の影響もあり前年同期を上回り、前年同期比106.8%の10,971百万円となりました。売上原価は、前年同期比105.2%の4,916百万円となりましたので、売上総利益は、前年同期比108.1%の6,054百万円となりました。販売費及び一般管理費は、人件費等の増加により、前年同期比105.4%の5,429百万円となりましたので、セグメント営業利益は前年同期比137.6%の625百万円と増益となりました。

## [宝ヘルスケア]

当第2四半期連結累計期間の売上高は、注力しているフコイダン関連製品やイソサミジン関連製品が好調に推移したことに加え、化粧品OEMの売上増加もあり、前年同期比120.1%の810百万円と増収となりました。売上高の増加によ

り売上総利益も増加しましたので、広告宣伝費などの販売費及び一般管理費の増加を吸収し、セグメント営業損益は前年同期に比べ35百万円改善し、30百万円の営業利益（前年同期は4百万円の営業損失）となりました。

[その他]

報告セグメント以外の「その他」のセグメントの売上高は前年同期比95.9%の3,336百万円となり、原価率の上昇や販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は前年同期比27.3%の28百万円と減益となりました。

#### 品種別販売実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	前年同期比
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
宝酒造グループ			
焼酎	33,128	31,090	93.8
清酒	8,368	9,168	109.6
ソフトアルコール飲料	14,467	13,375	92.5
その他酒類	5,986	6,335	105.8
酒類計	61,950	59,970	96.8
本みりん	6,811	6,465	94.9
その他調味料	3,940	4,107	104.2
調味料計	10,751	10,573	98.3
原料用アルコール等	3,184	3,171	99.6
物流	5,692	5,645	99.2
海外日本食材卸	3,345	8,390	250.8
その他	785	764	97.3
計	85,712	88,515	103.3
タカラバイオグループ	10,277	10,971	106.8
宝ヘルスケア	674	810	120.1
その他	3,477	3,336	95.9
事業セグメントに配分していない 収益およびセグメント間取引消去	△2,579	△2,502	—
合計	97,561	101,130	103.7

(注) 販売金額には酒税を含んでおりますが、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は246,530百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,953百万円増加いたしました。流動資産は、現金及び預金の減少や、受取手形及び売掛金の減少がありましたが、余資の運用としての有価証券の増加や、たな卸資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ3,782百万円増加し、154,334百万円となりました。固定資産では、設備投資による有形固定資産の増加や、上場株式の時価上昇による投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に比べ4,171百万円増加し、92,196百万円となりました。

負債合計は100,769百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,614百万円の増加となりました。主な増減は長期借入金の増加や有形固定資産の取得にかかる未払金による流動負債その他の増加、未払法人税等の減少であります。

純資産は、その他有価証券評価差額金が増加したものの、為替換算調整勘定の減少によりその他の包括利益累計額が減少したため、前連結会計年度末に比べ661百万円減少し、145,761百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費に加え、売上債権の減少などがありましたものの、たな卸資産の増加や前連結会計年度の課税所得に基づく、法人税等の支払で1,306百万円の支出となりましたが、前年同期間に比べると580百万円の支出減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による支出や有形及び無形固定資産の取得による支出などがありましたので、4,873百万円の支出となり、前年同期間に比べ2,883百万円の支出増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入がありましたので、配当金の支払等がありましたものの、前年同期間に比べ3,050百万円多い、7,339百万円の収入となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物残高は、前連結会計年度末に比べ687百万円増加し、35,296百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高につきましては、宝酒造グループは海外日本食材卸の好調や、円安の影響もあり海外売上高は期初予想を上回る見込みであります。国内では消費動向の回復の遅れによる売上の減少が懸念されます。タカラバイオグループも部門別に増減はありますが、全体では期初予想並みとなるため、グループ全体では期初予想を据え置くことといたします。

利益面につきましては、当第2四半期連結累計期間では期初予想を若干上回って進捗しておりますが、宝酒造グループでは引き続き海外日本食材卸事業が好調に推移するものの、これから年末にかけて最需要期を迎える国内酒類の事業環境、個人消費の回復については依然不透明感も残っております。タカラバイオグループでは、営業利益は期初予想を据え置き、経常利益は若干の上方修正となりますが、グループ全体の通期見込は営業利益、経常利益及び当期純利益ともに期初予想を据え置くことといたします。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に削減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が313百万円減少し、投資その他の資産のその他が359百万円、利益剰余金が414百万円、少数株主持分が16百万円、それぞれ増加しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

連結子会社であるタカラバイオ株式会社は、有形固定資産の減価償却の方法に主として定率法を採用してまいりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、同社設立から12年が経過し、また、当連結会計年度より遺伝子・細胞プロセッシングセンター等が稼働することから、研究開発活動及び生産活動において有形固定資産の安定的な使用が見込まれる状況になったことを受け、償却方法を再検討した結果、定率法から定額法に変更することが合理的であると判断したことによるものであります。

この変更により、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ97百万円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	41,015	36,930
受取手形及び売掛金	51,901	49,923
有価証券	21,534	28,814
商品及び製品	26,729	28,028
仕掛品	908	1,309
原材料及び貯蔵品	3,351	3,325
その他	5,254	6,150
貸倒引当金	△143	△148
流動資産合計	150,551	154,334
固定資産		
有形固定資産	47,976	50,947
無形固定資産		
のれん	7,539	7,248
その他	4,123	3,999
無形固定資産合計	11,662	11,247
投資その他の資産		
投資有価証券	23,532	25,013
その他	5,077	5,213
貸倒引当金	△223	△224
投資その他の資産合計	28,386	30,001
固定資産合計	88,025	92,196
資産合計	238,577	246,530
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,416	14,406
短期借入金	5,914	5,646
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払酒税	8,376	7,308
未払費用	4,480	4,405
未払法人税等	5,621	912
賞与引当金	2,081	2,356
その他の引当金	1,817	1,711
その他	5,953	10,091
流動負債合計	48,663	51,839
固定負債		
社債	25,000	20,000
長期借入金	310	10,378
退職給付に係る負債	6,943	6,714
長期預り金	5,591	5,628
その他	5,644	6,208
固定負債合計	43,491	48,929
負債合計	92,154	100,769

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	3,196	3,196
利益剰余金	104,739	104,769
自己株式	△9,931	△9,936
株主資本合計	111,230	111,255
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,941	6,877
繰延ヘッジ損益	279	449
為替換算調整勘定	2,894	1,360
退職給付に係る調整累計額	1,085	993
その他の包括利益累計額合計	10,200	9,681
少数株主持分	24,991	24,824
純資産合計	146,422	145,761
負債純資産合計	238,577	246,530



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	97,561	101,130
売上原価	60,608	62,502
売上総利益	36,953	38,627
販売費及び一般管理費	34,558	35,351
営業利益	2,395	3,275
営業外収益		
受取配当金	198	236
その他	309	324
営業外収益合計	508	560
営業外費用		
支払利息	223	247
その他	115	159
営業外費用合計	339	407
経常利益	2,564	3,429
特別利益		
関係会社株式売却益	9,261	—
固定資産売却益	6	59
投資有価証券売却益	0	19
その他	75	—
特別利益合計	9,344	78
特別損失		
固定資産除売却損	43	128
役員退職慰労金	24	34
その他	0	1
特別損失合計	68	164
税金等調整前四半期純利益	11,839	3,343
法人税、住民税及び事業税	4,937	1,310
法人税等調整額	167	△76
法人税等合計	5,104	1,233
少数株主損益調整前四半期純利益	6,734	2,110
少数株主利益	125	281
四半期純利益	6,609	1,828

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,734	2,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,514	936
繰延ヘッジ損益	64	166
為替換算調整勘定	3,149	△1,837
退職給付に係る調整額	—	△92
持分法適用会社に対する持分相当額	249	△87
持分変動差額	5,847	—
その他の包括利益合計	10,825	△913
四半期包括利益	17,559	1,196
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,715	1,309
少数株主に係る四半期包括利益	844	△112

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	11,839	3,343
減価償却費	2,028	2,127
受取利息及び受取配当金	△272	△337
支払利息	223	247
関係会社株式売却損益 (△は益)	△9,261	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,560	1,772
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,907	△1,937
仕入債務の増減額 (△は減少)	122	40
未払酒税の増減額 (△は減少)	△2,023	△1,066
その他	△773	316
小計	536	4,506
利息及び配当金の受取額	311	355
利息の支払額	△242	△244
法人税等の支払額	△2,493	△5,923
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,887	△1,306
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△18,363	△10,856
定期預金の払戻による収入	10,935	11,231
有価証券の取得による支出	△1,695	△3,880
有価証券の売却及び償還による収入	701	1,686
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,085	△3,045
関係会社株式の売却による収入	12,241	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	△2,666	△142
その他	△56	133
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,989	△4,873
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	10,100
社債の償還による支出	△5,000	—
少数株主からの払込みによる収入	11,420	—
配当金の支払額	△1,823	△2,211
その他	△308	△549
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,288	7,339
現金及び現金同等物に係る換算差額	865	△471
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,276	687
現金及び現金同等物の期首残高	35,287	34,608
現金及び現金同等物の四半期末残高	36,564	35,296

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	85,540	9,986	673	96,200	1,147	97,347	213	97,561
セグメント間の内部 売上高又は振替高	172	290	1	463	2,329	2,793	△2,793	—
計	85,712	10,277	674	96,663	3,477	100,141	△2,579	97,561
セグメント利益又は損 失(△)	1,463	454	△4	1,913	103	2,017	377	2,395

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益又は損失は、セグメント間取引消去39百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益338百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「宝酒造グループ」セグメントにおいて、新たに連結子会社としたT.Tazaki &amp; Company Limitedの株式取得等に伴い、当第2四半期連結累計期間において、のれんが2,506百万円増加しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造 グループ	タカラバ イオグル ープ	宝ヘルス ケア	計				
売上高								
外部顧客への売上高	88,358	10,585	809	99,753	1,150	100,904	225	101,130
セグメント間の内部 売上高又は振替高	156	385	0	542	2,185	2,728	△2,728	—
計	88,515	10,971	810	100,296	3,336	103,632	△2,502	101,130
セグメント利益	2,194	625	30	2,850	28	2,878	396	3,275

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷事業などの機能会社グループであります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高は、当社において計上した不動産賃貸収益であります。

(2) セグメント利益は、セグメント間取引消去21百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益375百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産の減価償却の方法については、従来、連結子会社のタカラバイオ株式会社は、主として定率法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、「タカラバイオグループ」で97百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。